

マーシャル諸島でおきたこと
～映画「タリナイ」を通して戦争を語り継ぐ～



忘れた環礁は、憶えている

父の最期の地（マーシャル諸島）をめぐる74歳の旅と、島の暮らしに棲みついた戦争の記憶

大川史織 初監督作品
プロデューサー／藤岡みなみ

タリナイ tarinae

映画「タリナイ」

製作・配給：春眠舎 | 宣伝：アーヤ藍 | 2018 | 日本 | カラー | 日本語 英語 マーシャル語 | 93分

www.tarinae.com

MITOMO STUDIO

8月21日(金)18:00 22日(土)10:00/13:30

入場無料

各回定員は事前申込制15名となります(詳細は裏面をご参照ください) | 開場は30分前です | 上映時間:93分

上映後に監督との映像交流があります。
 作品にこめた想いにふれ、あなたの感情を形にしてみませんか？
 ～ 映画を観た感想を綴る時間を設けます ～



このことを一度とだれも体験しないような世界にきつとなくなってくれという切実な思いが、映画を作った大川さんと映された勉さんや、通訳や案内の人などの背後に見えてくるという、たいへん優れた映画ですよ。

— 映画作家 大林宣彦

1945年4月。
 ひとりの日本兵が戦地マーシャル諸島で命を落とした。
 補給が絶たれたことによる飢えであった。
 2016年4月。
 74歳になった息子は
 マーシャル在住歴のある若者3人とともに
 父が過ごした最期の地をめぐる旅に出た。

コイシイワアナタハ 迎えてくれたのは日本語の歌でした

story

アジア・太平洋戦争中、日本の委任統治下にあったマーシャル諸島では、約2万人の日本兵が命を落とした。その一人、佐藤富五郎さんは飢えて亡くなった。亡くなる数時間前まで書き続けていた日記は戦後、戦友によって家族のもとに届けられた。日本から遠く離れた太平洋の島での最後の日々が、克明に綴られている。

2歳で父と別れ、74歳になった息子の勉さんは、日記を手がかりに父の最期の地をめぐる旅に出る。マーシャル諸島に住んだことがある若者たちが案内役となった。

道中目に飛び込んでくるのは、旧日本軍が遺した建物を使った家、錆びついた砲台で遊ぶ子供たち、地中に埋まった電線を掘り出して作った手工芸品、日本語の恋の歌を歌う人びと…
 マーシャルの暮らしのいたるところに、戦争の記憶が顔を覗かせていた。

ひとりの日本兵の魂を追いかけて、不意にマーシャルの人々の「記憶」に触れ、慌てる。これは、ただの慰霊の旅なのか？
 美しい海と陽気なウクレレが心にざわめくドキュメンタリー。

comments

佐藤さんの痛みを想像するとき、自分の限界をいつも感じてしまう。カメラの眼差しが優しくかった。

——— 映像作家(「記憶の中のシベリア」) 久保田桂子

対象への謙虚な距離感を持った映像はそれゆえ、幸福にも戦争を知らない僕らに自ら考えることを促してくれる。

——— 漫画家(「ペリリュー - 楽園のゲルニカー」) 武田一義

マーシャルの人たちの歌う歌に、私たちも応えていかなければならない。

——— 国立歴史民俗博物館教授 三上喜孝

青い海、島の音楽、そこで書かれた最後の日記。繰り返されるそのループに、私たちの今が、いかに特別かということが何度も何度も思い起こされました。

——— お笑い芸人・漫画家 矢部太郎



上映会場: **洗心庵** (山形市緑町1-4-28) | 近隣駐車場はございません。
 下記 QRコード で参照ください | 県営駐車場(駐車券2h)をご利用ください。

コロナ感染防止対策のため、事前申し込み制の各回先着15名となっております。
 ①参加者氏名②住所③電話番号④希望日時を、下記電話かメールにてお申し込みください。
 090-4882-2163 (田中)または email:tarinae.yamagata2020@gmail.com



主催: 嗚呼山形自主上映会 後援: 認定NPO法人山形国際ドキュメンタリー映画祭
 助成: 山形市コミュニティファンド (映像文化創造都市やまがた推進ファンド)